

土手町通り

弘前市の目抜き通りといえば、当時は一番町から土手町、松森町にかけて。井上さんは「その距離約二キロ。こんなに長くつらなる商店街は、大都市でもめったに見られない。人口七万足らずの小都市弘前には不釣り合いな…」とコメントを付している。

このころの弘前は、車は時たま通るだけ。センターラインも引かれておらず、土手町通りはやけに広く感じられた。

昭和の大合併が始まる前だから、井上さんの言うように人口は七万人弱。この写真を撮影した翌々年の三十年に清水、和徳、豊田、裾野など周辺十一村を吸収合併し、少し置いて三十二年には石川町を編入、人口は倍増した。そして平成の大合併で岩木町、相馬村も弘前市に加わり、大きな飛躍をとげる。

モノクロの街ひたひたと梅雨に入る 今田とみを

